

入国, そして長期滞在スタート

中国には今まで何度か渡航しているが、山西省へは今回が初めて。私が今回の渡航で最初に山西省と出会ったのは、経由地の大連だった。そこで奇遇にも山西大学で働いていたという男性と話し、山西省や山西大学の魅力を早速耳にした。太原到着後、初日は山西省の名物である独特の麺でもてなされ、温かく迎えられた。車で移動した時に見えた夜の太原市内の雰囲気は非常に良く、人も親しみやすく感じた。またその後も多くの中国人と交流する日々が続く。道を尋ねた相手と親しくなるなど、機会は様々。省内のIT企業などで働く夫婦に山西省の観光地を車で案内されたこともあった。中国では相手を個人として重視し面倒くさげらずに人と向き合う人が多いという印象を持っているが、この地域も例外ではないようだ。



毛沢東像

2014年9月号

語学の授業は9月初めにスタートした。中国の語学教育は、リスニング、会話、リーディングなどの科目に分かれているため、体系的な学習により実践的な語学力を身につけることに適しているように感じられる。また、山西大学には自分の専攻分野の実践としてキャンパス内で店を経営している学生もおり、中国の大学における教育の質の高さを実感する場面は多くあった。



軍事訓練に励む
山西大学の新生

大学では学生の前で故郷についてプレゼンテーションをする機会があり、埼玉県の特徴を中国語で書かれたパンフレットも用いながら伝えた。省内で、埼玉親善大使として滞在していることを話すと中には友好提携について知っている中国人もいた。



キャンパスの様子

依然として冷え切っている日中関係だが、これらについて議論することもある。やはり中国では一般に日本といえば悪いイメージだとある中国人学生は語った。そして朝鮮に対しては良い印象があり、冷戦構造上は対立のある韓国に対しては、現在は悪いイメージはないという。しかし、私自身は日本人だと知られたことによって悪い扱いを受けたことはないのも事実だ。また同学生に中国共産党についても尋ねたところ、中国に相応しい制度だと答えた。今後も地元の中国人による生の声に耳を傾けていきたい。

杉浦聡太